

氏名	安井雅人
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博乙第3184号
学位授与の日付	平成10年3月25日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)
学位論文題目	The role of tissue-fixed macrophages in apoptosis in the developing kidney (発達腎におけるアポトーシス細胞の観察とその除去過程における在住マクロファージの役割に関する検討)
論文審査委員	教授 榎野 博史 教授 赤木 忠厚 教授 中山 睿一

学位論文内容の要旨

マウス発達腎およびヒト胎児腎において、アポトーシス細胞の出現とそれらを除去する細胞について免疫組織化学法および TdT-mediated dUTP-biotin nick end-labeling 法を用いて検討した。マウス発達腎およびヒト胎児腎において、アポトーシス細胞は主に nephrogenic zone に認められた。その局在は、主に comma-shapeあるいはS-shape の糸球体に近接して認められた。また、マウス発達腎およびヒト胎児腎において、在住マクロファージはすでに nephrogenic zone を含めた腎全体に分布していた。Nephrogenic zone におけるアポトーシス細胞の大部分が在住マクロファージにより貪食されていた。マウス発達腎およびヒト胎児腎では、在住マクロファージがアポトーシス細胞の除去機構において重要な役割を果たしているものと考えられた。

論文審査結果の要旨

本研究はマウス発達腎およびヒト胎児腎において、アポトーシス細胞の出現とそれらを除去する細胞について免疫組織化学法および TdT-mediated dUTP-biotin nick end-labeling 法を用いて検討した。マウス発達腎およびヒト胎児腎において、アポトーシス細胞は主に nephrogenic zone に認められた。その局在は、主に comma-shape あるいは S-shape の糸球体に近接して認められた。また、マウス発達腎およびヒト胎児腎において、在住マクロファージはすでに nephrogenic zone におけるアポトーシス細胞の大部分が在住マクロファージにより貪食されていた。マウス発達腎およびヒト胎児腎では、在住マクロファージがアポトーシス細胞の除去機構において重要な役割を果たしているものと考えられた。

よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。